

第2分科会

【演 題 等】「個に応じた不登校児童生徒の理解と支援について」

【講演・発表者】

滋賀県守山市立河西小学校

主幹教諭 大島 淳

史

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課 生徒指導・いじめ対策支援

室

指導主事 竹中 裕貴

・発表概要

1. 令和4年度の取組について（大島主幹教諭）

- (1) 不登校対策研究会議の開催について
- (2) 教員向け不登校に係るリーフレットの
- (3) リーフレットの活用事例：河西小学校での実践事例

作成

2. 令和5年度の取組について（竹中指導主事）

- (1) 不登校対策連絡協議会の開催
- (2) 教員向け不登校リーフレットを活用した各種研修会の実施について
- (3) リーフレットを使った模擬研修

3. 滋賀県の今後の取組について（竹中指導主事）

滋賀県不登校対策庁内会議の開催、総合教育会議で不登校について議論を進める。

・発表要旨

1. 令和4年度の取組について（大島主幹教諭）

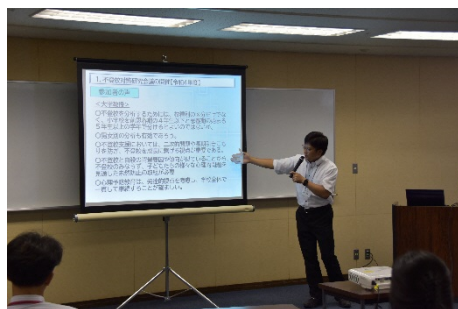
- (1) 不登校対策研究会議の開催について
 - ①滋賀県は、令和3年度、不登校児童生徒は全ての校種で増加し、小中学校では、不登校児童生徒数が過去最多、在籍率も過去最高であった。
 - ②このことを受けて、滋賀県では、学識経験者、心理、福祉、医療、民間施設の代表者と教育行政とともに、これまでの取組を検証し、今後の不登校対策について議論した。
 - ③議論により様々な不登校の要因の可能性を確認することができた。
 - ④参加者の声をまとめ、分析した結果をもとに、教員向けリーフレットを作成した。

(2) 教員向け不登校に係るリーフレットの作成

- ①令和5年3月に「滋賀の子ども達の社会的自立を支える」学校教員向け不登校の理解と対応リーフレットを全教員へ配布した。
- ②また、不登校対策研究協議会の内容をまとめたものを各校へ通知した。

(3) リーフレットの活用事例：河西小学校での実践事例

- ①新学期3日目から行き渋りの1年生の事例を紹介。「泣く・わめく・暴れる」児童に対して、「まずは教室へ」という対応をしまい教室に入れなくなる悪循環に陥ってしまった。



- ②再度BPSモデルに基づきアセスメントし、子どもの背景を捉えてプランニングを行い子どもの声を肯定的に捉え、安心・安全の確保をすることで心のエネルギーを充填するという支援の方向性を打ち出し、保護者とも共有した。
- ③子どもの声を肯定しながら、関わりを深めていくことで、子どもとの信頼関係も深まり別室登校ができるようになった。6月には、教室で授業を受けることができるようになり、担任とも連携することで、本児と担任のつながりを深めることもできた。

2. 令和5年度の取組について（竹中指導主事）

（1）不登校対策連絡協議会の開催

- ・滋賀大学教授 芦谷道子氏を講師に迎え、「子どもたちのさまざまな心理的問題に対する支援の充実について」といった内容で御講和をいただいた。

（2）教員向け不登校リーフレットを活用した各種研修会の実施について

- ・滋賀県総合教育センターでの研修（初任者研修等）、各市町での研修（生徒指導担当者、管理職、地域等）、学校訪問での研修等で研修会を実施した。

（3）リーフレットを使った研修について説明（模擬研修形式）

3. 滋賀県の今後の取組について（竹中指導主事）

- ・滋賀県不登校対策庁内会議の開催、総合教育会議で不登校について議論を進める。

・質疑応答の概要

- Q 1 チーム学校として機能させるために、どのようなことに気をつけていけばよいか。
- A 1 何より同僚性が大切。相談しやすい職場環境を作っていくことに努める。教職員同士をつなげるという意識を持つ。また、関係機関連携については、顔の見える関係性となるよう、各機関に足を運ぶことも必要。
- Q 2 「させる」から「支える」生徒指導となり、発達支持的生徒指導が大切である。ポイントをあげるとしたらどのようなところか。
- A 2 子どもの声に耳を傾け、個々の子どもにチューニングを合わせていくことが大切。
- Q 3 教員の配慮に欠ける言動は絶対に許されないということがリーフレットにも記載されている。個々の感性にもよる部分があるが、なくしていくにはどのようにしていけばよいか。
- A 3 多忙化により、教員の心にゆとりがないことが言動に影響していることはあると考えている。

・記録者雑感

具体的な実践例や模擬研修の手法を用いることで、リーフレットの内容や滋賀県が大切にしている考え方について参加者の理解が深まった。

模擬研修の中で、受講者同士が意見を交わす機会があった。インプットだけでなく、アウトプットする機会を持つことで参加者が考えを深めることができたのではないかと感じた。